あけぼの支援学校の基本的な食形態（形態食）

基本は4つの食形態から選択する。主食、主菜、副菜、デザートのそれぞれの形態の組み合わせが可能で、充分にやさしい食形態で栄養を取り、難しい食形態で練習するなどして、ゆっくり移行ができる。 このほかにアレルギー対応食もある。

ご飯は、硬めの飯、軟らかめの飯、全粥、ペースト粥の4種。パンはパン、パン粥、ペーストの3種。麺は普通の硬さの麺、軟らかい麺、軟らかい麺の細かい刻み、ペーストの4種。

充分に噛む力のある子どもが食べる食形態（あけぼの常食は、イカなど一部の噛むきりづらい食品を除いた食事）

常食（あけぼの常食）

噛む練習ができる、まとまりが良く、数回噛めばまとまり、嚥下できる食形態。野菜は煮たり蒸して、一部はかじり取れるスティック状にする。魚や肉はミンチからハンバーグ状にしてかじり取りしやすくスティック状に切る。リンゴやナシは生を薄く切る。

かみ食（後期食）

舌と上顎で押しつぶす練習ができる。常食をミキサーにかけ、嚥下調整食品を入れて加熱し、冷却してゼリーに。下の写真は、ゼリーのサラダの代わりに、かじり取りできる軟らかい煮野菜となっている。

ソフト食（中期食）

唇で捕食して、飲み込む練習ができる。常食をミキサーし粒のないなめらかなペースト状にした食形態。なるべく増粘剤は少なめにして味を大事に。

ペースト食（初期食）